

DES, OPCAB 時代の成果と課題

西田 博 東京女子医科大学心臓血管外科

わが国では、21世紀に入り、内科ではDES、外科ではOPCABが急速に普及しています。その度合いは世界でも最も高い部類に入ると思われます。この特集では、その成果と課題について実際の経験や、わが国の固有の状況、他の治療法との関連、リスクファクターのコントロールや心不全などに対する生涯にわたる管理などの視点も盛り込んで、内科、外科各2組のエキスパートの先生方に振り返っていただくことを目的としました。“成果”について十分にアピールをしていただくとともに、“課題”につきましては、まずそれぞれの足元を見つめなおすという意味で、内科の先生にはDESの、外科の先生にはOPCABの課題や問題点に言及していただきました。その上で、内科の先生から見たOPCABの課題、外科の先生から見たDESの課題にも触れていただくこととしました。内科と外科が手を携え、良質で最先端の医療を冠疾患患者さんに提供することを理念とした日本冠疾患学会ならではの特集となったものと思います。現時点での到達点を振り返ったわけですから、今後はDES、OPCABの先に続く未来の展望こそが必要でしょう。会員諸氏は日常の臨床や研究のなかでいろいろなことを感じ、様々なアイデアをお持ちのことと思います。外国で始まったことをいち早く世界一の頻度で利用し普及させることのみならず、そのrefinementも含め日本発のネクストステージの発信につながる事を期待したいと思います。